政 治 研 究 結 果 報 告 書

―政治研究助成―

西暦　２０２４年（令和６年）２月２２日

一般財団法人　櫻　田　會
理事長　　増田　勝彦　殿

研 究 者　明治大学政治経済学部教授
井田　正道

第　41　回（令和４年度）櫻田會政治研究助成による研究を下記のとおり実施しましたので、その結果について報告します。
※印の記入項目に関する貴會ホームページへの掲載についても同意いたします。

記

※研究の名称（英語も記入）　Research Theme

日本における政治的シニシズムに関する研究
Political Cynicism in Japan

※英文抄録（研究目的、経過、成果 250 words **以内）** Abstract (Purpose, Process, Significance)

This research focuses on political cynicism in the political attitudes of Japanese people. Research on political attitudes among Japanese people has focused on political party support, ideological attitudes, sense of political alienation, and sense of political effectiveness.

On the other hand, in political socialization research, there are previous studies on attitudes on party support, images of the prime minister and politicians, and sense of political effectiveness. is the development of a cynical consciousness towards these political actors.

In addition, the repeated incidents on political corruption are thought to have fostered a cynical attitude toward politics among Japanese people. However, as currently no index of political cynicism has been established, I will present a new index here. We conducted an analysis of the determining factors. An online survey was conducted in November 2023 for Japanese voters. The total number of respondents was 5,632. After the data cleaning, 4,896 respondents were analyzed.

Age and class consciousness were detected as the factors that determine political cynicism. Regarding age, cynicism was relatively low in younger people. However, cynicism scores were high even among young people, indicating the importance of early socialization in the formation of cynicism. Regarding class, lower classes people tend to have more cynicism than higher classes people.

※研究の目的・研究方法・意義 （和文 600 字以内）

本研究は、日本人の政治的態度のなかで政治的シニシズムに焦点をあてた研究である。日本人を対象とした政治的態度研究としては、政党支持態度、イデオロギー態度、政治的疎外意識、政治的有効性感覚、などが研究されてきた。他方、政治的社会化研究においては政党支持態度や総理大臣や政治家イメージ、また政治的有効性感覚についての先行研究がある、そのなかで政治家や総理大臣イメージに関する研究から見出されたのは、これら政治的主体に対するシニカルな意識の発達である。アメリカの政治的社会化研究ではでは大統領や市長に対する初期のイメージが慈悲深い指導者像（Benevolent Leaders）であったのとは対照的に、日本ではネガティブなイメージが形成されていることを岡村忠夫が指摘した（岡村　1971）。加えて、度重なる政治腐敗の事件が、日本人の政治に対するシニカルな態度を醸成したと考えられる。しかしながら、現状、政治的シニシズムの指標も確立されていないことからここで新たに指標を提示し、その規規定因の分析などを行った。

※研究経過と結果の概要　（以下の欄に 35 行以内（1500 字程度）にまとめる）

2023年11月に全国の有権者を対象としたオンライン調査を実施し、本研究費のほとんどすべを同調査（業務委託費）に充当した。回答者総数は5,632名であった。しかしながら、オンライン調査のデータはデータクリーニングが必要であり、政治的シニシズム項目に対するストレートライン回答者をカットした 4,896 サンプルに対して分析を行った。

政治的シニシズムに関する質問項目は 6 問設定し、その 6 問に対する回答を合計してシニシズム得点を算出し、シニシズム尺度を形成した。全体として、シニシズム得点は高く、従来の政治的社会化研究とも符合する結果となった。

次に政治的シニシズムの規定要因の分析を行った。独立変数としては、性別、年齢、職業、婚姻、子の有無、といった属性変数、および階層意識（自らの生活程度を1～10 のなかで選択）を投入し、分析手法は順序ロジット分析を用いた。分析の結果、階層意識と年齢が規定因として検出された。階層意識（1～10）に関しては係数が負の値を示したことから。階層が低くなるほどシシニシズム得点が高くなり、階層が高いほどそれが低くなる方向に作用する。年齢に関しては基準カテゴリーである 70 歳以上に対して若年層が有意にマイナスの係数を示したことから、若年層比較的シニシズムが低い。とはいえ、若年層においてもすでにシニシズム得点の平均値は高く、初期政治的社会化の重要性が確認された。

さらに、シニシズム得点と他の政治的態度との相関分析を行い、自民党支持度や岸田政権に対する評価および国の経済状況認識と負の相関関係が認められた。つまり、シニシズム得点が高くなるにしたがって自民党に対してネガティブになり、また政権評価も厳しくなるほか、国の経済状況に対する認識も厳しくなる。他方で政治関心度とはほとんど相関が認められず、シニシズム

が政治的無関心につながっているわけではないことも判明した。

このほかの政治的態度との相関も様々確認され、政治的シニシズムの特性が把握できる結果とった。

※研究成果の発表・著書、論文、学会報告等（あるいは発表の計画や形式等）

研究成果については、論文での発表を計画している。具体的には、2024 年度または 2025 年度の『政経論叢』(明治大学政治経済研究所発行)に論文を投稿する予定である。

〔注〕 文責は貴研究グループに負っていただきます。個人情報等には十分ご留意ください。